

歯肉メラニン除去における **PRF** (Platelt-Richi Fibrin) 応用症例

Effect of gingival melanin removal in PRF (Platelt Richi- Fibrin) application cases

○増木 英朗¹⁾ 鈴木 正史¹⁾ 奥寺 俊允¹⁾ 渡辺 泰典¹⁾ 奥寺 元¹⁾

MASUKI H SUZUKI M OKUDER T WATANABE T OKUDERA H

東京形成歯科研究会¹⁾

TOKYO PLASTIC DENTAL SOCIETY

I 目的： 近年歯科において、患者の美容審美的思考が強くなり、できる範囲で天然歯に近づく治療が求められてきている。同時に歯槽骨・歯肉形態や色素についても同様な要求が出てきている。私どもは、歯槽骨・歯肉形態修正において多血小板血漿 (PRP) 及び多血小板フィブリン (PRF) を持つ効果を応用して治癒促進を含む審美を求めた形態再生の効果を発表してきた。この度、歯肉軟組織の審美障害をもたらすメラニン色素沈着除去に応用して、患者の痛みの緩和と治癒促進を含む審美的効果を挙げた症例を紹介する。

II 材料と方法： 患者は共に喫煙既往があった 50 代の男女で歯肉部には著明なメラニン沈着が認められている。患者の要望もあり説明と同意を受けた後に実地した。実地方法はメラニン除去はハイパワー-DIODE LASER 30W 出力 (米国 PREMIER 社) で浸麻後歯肉上皮をピーリングを行い、メラニン色素の部位を拭い取方法を試みた。メラニン部位が完全に除去された部位に、18 ゲージの採血針により採血した 40cc 血液を遠心分離器出試験間 10 cc ずつ入れて 15 分間回転しバッフィコートから切り離して、特定のシートで圧縮し、製作した PRF を創面に覆いかぶせて固定する。その治癒過程を客観テスト Visual analog Scale (VAS) テストと肉眼で観察した。

III 結果： 歯肉上皮表面剥離においては、術直後から、外部にさらされて苦痛を伴う、今回剥離上皮を PRF で覆い被せるため、その違和感も訴えなかった VAS 値においても低かった。又新生肉芽組織も 1~2 週間のうちに置換され組織回復も早かった。

IV 考察及び結論： 歯科治療に於ける患者の審美要求は不可欠のものとなっており、メラニン色素の除去も例外ではなかった、然しその治癒過程で患者に苦痛を与えるものであったが、今回この方法を取ることで違和感を最小限にすることが出来た。治癒も促進できた。すなわち患者が求められる QOL に寄与すると考える。